2023年度　学校法人滋慶学園　福岡医健・スポーツ専門学校　学校関係者評価委員会（2022年度評価シート）

【2023年5月19日実施】

2022年度　自己点検自己評価（2022年4月1日～2023年3月31日）

学校関係者評価委員【　13名のご意見　】

大項目	点検・評価項目	自己評価 適切に対応：4 ほぼ適切に対応：3 やや不適切：2 不適切：1	点検・評価項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評　価 適切に対応：4 ほぼ適切に対応：3 やや不適切：2 不適切：1	学校関係者評価委員よりの御意見
1 教育理念・目的・育成人材像	1. 理念・目的・育成人材像は、定められているか 2. 育成人材像は専門分野に関連する業界等のニーズに適合しているか 3. 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか 4. 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	4	1. 福岡医健・スポーツ専門学校は滋慶学園グループに属し、「職業人教育を通して社会に貢献する」ことをミッションとしている。このことを実践する為に、「実学教育」「人間教育」「国際教育」という3つの建学の理念を基本に教育を実施している。また、その結果として、学生・保護者からの信頼、高等学校からの信頼、産業界からの信頼、地域からの信頼という4つの信頼の獲得を目指している。新型コロナ感染拡大の影響で、「国際教育」の一環として実施している海外実学研修が中止となっているが、海外講師によるオンラインでの講義などその保管に努めている。 2. 教育課程編成委員会を始め、業界のプロである講師、キャリアセンタースタッフによる企業訪問、教員による実習巡回など様々な機会を捉えて企業・業界から情報を収集し、業界のニーズに適合した人材育成に努めている。 3. 教育理念の達成に向け、教育コンセプトとして「業界と共に業界に必要な即戦力の人材を育成し、業界に送り出す」という「産学連携教育」を開校以来、実践してきた。 具体的には、講師の派遣、学習する題材としての企業課題や企業プロジェクトの提供、機材・機器選定のアドバイス、研修・実習の受入など、多岐に渡って協力を頂いている。 また、新入生オリエンテーション、授業、ホームルーム、教科指導、実習指導、生活指導、就職指導などあらゆる機会を通して、3つの教育理念に基づく教育を実践している。 4. 教育課程編成委員会や業界からのアドバイスに基づいて、社会のニーズや業界の変化に合わせて、適宜適切にカリキュラムや授業内容の改善を図っている。	職業人教育は、専門職業教育とキャリア教育から成る。専門職業教育とは、即戦力としての高度な技術・知識の習得であり、キャリア教育とは、プロの職業人として必要な人間力、仕事に対する身構え・気構え・心構えの習得及び職業観・勤労観の確立を言う。 ＜福岡医健・スポーツ専門学校　3つのポリシー＞ （1）アドミッションポリシー（入学者受入方針） ①将来の夢や目標を持っている人。 ②好きな分野を通じて、人に喜びや感動を与えたい人。 ③本校の教育内容や方針を十分に理解している人。 ④「好きなことを仕事にしたい」という気持ちを持っている人。 （2）カリキュラムポリシー（教育編成方針） ①実学教育：専門職業教育として、業界において求められる即戦力としての知識・技術を習得する。 ②人間教育：「今日も笑顔で挨拶を」のスローガンの下、社会人基礎力やセルフマネジメント、チームマネジメント、コミュニケーション力、職業観、仕事観などを学校生活のあらゆる機会を通して育成する。 ③国際教育：グローバル化している現代社会において、英会話教育や海外実学研修などを通して国際的な感性を養い、広く世界に通用する人材を養成する。 （3）ディプロマポリシー（卒業認定等の方針） ①各学科で定めた所定の単位を修得している。 ②業界が求める即戦力としての知識・技術を習得し、職業を通じて社会に貢献できる。 ③職業人としての身構え、気構え、心構えを身に付けると共に、コミュニケーションが取れる。 ④リーダーシップを発揮しながらも他者との協調が取れるなど、セルフマネジメント、チームマネジメントができる。 ⑤国際的な感性を身に付けている。	4	・教育理念は大変良い。（村田委員） ・学校、業界、父母、地域の関係は素晴らしい。（村田委員） ・柔道整復科は臨床実習など業界と密な関係をもっと実践してほしい。（村田委員） ・外部講師を業界から派遣している。学生にとっては有意義なものと思う。（要委員） ・今後とも社会情勢の変化に対応すべく、外部との連携を進めていただきたい。（要委員） ・引き続きニーズに合わせたカリキュラムの改善など継続されると良いと思う。（中西委員） ・海外実学研修は金銭面で厳しい学生いると思いますが、参加者はどれくらいか。（谷口委員） ・オンラインの講義は、全員参加か。（谷口委員） ・コロナ禍にも教育理念を実現すべく、教育理念を全うされている点すばらしいと考えます。＜障害をもつ方に向けた人力車を用いた福岡城の登城談＞（今里委員） ・3つのポリシーは、18才の高校3年生が志望校を決めるに際し、とても重要なポイントになると思う。とても分かりやすい記載で好感がもてる内容である。（案西委員） ・学校関係者評価委員会及び業界からのアドバイスにて適宜カリキュラムや授業の改善を図っているとありますが、具体的な改善点、変更内容は第三者からわかるのか。（丸田委員） ・信頼の獲得を目指しているとのことですが、信頼の評価はどうしているのか。（橋本委員） ・実学教育がコロナ禍に比べるとやりやすくなっているので、今後更に積極的に活動してもらいたい。（福田委員） ・3つのポリシーは、適正に定められていると思う。（安積委員） ・ミッション及び建学の理念は適切に対応されていると思う。特に人間教育の観点では、先生方の努力が実を結ばれていると思う。（安積委員） ・人材育成は、学生一人一人の弱点な所に先生が寄り添って相談にのるのは大変良いと思う。（富崎委員） ・国際教育は、学生の将来への夢への良いアドバイスになっていると思う。（富崎委員） ・職種の特徴から、コミュニケーション能力が大半と考え力を入れて取り組んでいただきたい。（戎崎委員）
2 学校運営	1. 理念に沿った運営方針を定めているか 2. 理念等を達成する為の事業計画を定めているか 3. 設置法人は組織運営を適切に行っているか 4. 学校運営の為の組織を整備しているか 5. 人事・給与に関する制度を整備しているか 6. 意思決定システムを整備しているか 7. 情報システム化の取組み、業務の効率化を図っているか	4	1. 滋慶学園の理念のもと策定された滋慶学園グループ5カ年計画に基づいて、本校の運営方針を定めている。 2. 滋慶学園グループ第7期5カ年計画を受け、本校の事業計画を定めている。事業計画には、グループ全体の方針や方向性、組織、各部署における目標や取組、業務分掌、各種会議、研修など多岐に渡って明確に示されている。 また、広報・教務・就職等各部署単位で具体的な目標設定がなされ、それに沿って各人が目標を設定し実行している。これを半期ごとにチェック・管理している。 内容は、事業計画の核を成す組織目的、運営方針、実行方針、実行計画で構成される。事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決済を受けて承認され、全教職員に周知徹底している。 3. 理事会・評議員会は寄附行為に基づき適切な時期に開催され、必要な審議がなされ、適切な手続きを経て適切に組織を運営している。 4. 事務局長会議、教務部長会議、また学校単位では、全体会議、リーダー会議、教務会議、学科会議、国試会議、DO会議、広報会議、各種研修・勉強会等を定期的に実施し、全ての教職員が組織の方針や考え方を十分に理解したうえで、同じ目的・目標に向かって協力の下、適切な学校運営の実践とイノベーションに務めている。 5. 滋慶学園グループの人事・給与等を包括的に管理する（株）滋慶サービスの下、適切に運営されている。また、人事・給与に係る制度は、就業規則に明文化され、全教職員に周知・共有されている。 6. 事業計画の組織図には、学校に関わる人材が明記され、自己の組織上の位置づけを誰もが理解できるようになっている。そして、この組織図に基づいて、適切に意思決定がなされている。決定項目によって、事務局長、広報部長、教務部長、課長、学科長、主任等への更なる権限委譲を図り、より効率的かつ迅速な意思決定を行う。 7. 滋慶学園グループには、IT・情報システムに関わるサポート企業として、（株）ブレーンスタッフコンサルタンツと（株）国際教育センターVISTA　ARTSの2社があり、情報のシステム化と効率化を図っている。	2022年度は第7期 5か年計画の1年目。 滋慶学園の「人は仕事を通して成長する」という考えの下、滋慶学園グループの研修、学校の研修、学科・部署単位の研修、現場で行うOJT、個人で取り組む自己啓発等を通して職員の成長を促進し、学校運営力、クラス運営力の向上を図っている。 滋慶学園グループの理念を明文化した「滋慶語録」について、朝礼において各スタッフが日々の業務でどのように活用しているかスピーチするなど、理念の周知徹底に取り組み、理念に沿った適切な組織運営を図っている。 また、学科ごとに、それぞれの業界が主催する専門分野に関する研修会にも積極的に参加して、最新の技術・知識の習得を図ると共に、常に業界のニーズの把握に努めている。 ＜滋慶学園7つの視点＞ ①攻めと守りの視点 ②グローバルな視点 ③一人ひとりを見てゆく視点 ④企業・業界・社会を見てゆく視点 ⑤事業運営力を持つ視点 ⑥スタッフが成長していく視点 ⑦理念・コンセプト徹底の視点 ＜人事管理・支援制度＞ ①勤怠管理システム（働き方改革） ②滋慶EAP職員サポートセンター ＜その他＞ 新年度を迎えるにあたり、事務局長が全スタッフと面談を実施し、各部署・各個人の現状や課題、困っていること、改善点、職場へのリクエストなどを聞き取って適切に対応することで業務改善を行い、職場満足の向上を図っている。	4	・グループ5か年計画をもっとわかりやすく説明するよう求める。また、毎年できたこと、できなかったことを教えていただくよう望む。（村田委員） ・滋慶グループは全国展開し、それぞれが連携して人事交流があり他校と異なっていると思う。今後とも適切な運営をお願いしたい。（要委員） ・朝礼で職員のスピーチを見て、理念は周知徹底されていると思う。（谷口委員） ・中長期事業計画に基づき、組織化が明確であると考える。（今里委員） ・すべての教職員が理念に沿った運営方針を共有し実践できるように様々な角度から取り組みが行われている。（案西委員） ・多岐に渡る部門があり、それぞれの部署がある中、法人全体が同じベクトルに向かうよう理念と共有していることが伝わる。（丸田委員） ・スタッフの成長について、誰がどこでフィードバックをかけているのか。また個人個人の力量を評価するものはあるのか。（丸田委員） ・全ての教職員が同じ目標に向かっていますが、全ての職員がベクトル化されているのか。また、その調査はどうしているか。（橋本委員） ・最新の技術、知識はもちろんですが、基本となる知識と技術の向上にも努めてもらいたい。（福田委員） ・スタッフ間の情報共有は的確にされていると思う。（安積委員） ・グループ全体のことは、意見ができません。（安積委員） ・学校関係者評価委員会での説明にプラスして、もう少し詳細な説明をしてもらいたい。（冨崎委員）

3 教育活動	1. 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか 2. 学科ごとの修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか 3. 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか 4. 教育課程について、外部の意見を反映しているか 5. キャリア教育を実施しているか 6. 授業評価を実施しているか 7. 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか 8. 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか 9. 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか 10. 資格・免許取得の指導体制はあるか	3	1. 「職業人教育を通して社会に貢献する」という滋慶学園グループのミッションの下、建学の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」に基づいて教育課程編成方針・実施方針を定め、教育を行っている。 2. 学科ごとに教育到達レベルを明確に設定し、それを学生便覧及び教育指導要領に記載するとともに、HPにもアップしている。加えて、すべての科目のシラバスをHPにて公開している。 3. 滋慶学園グループ五カ年計画のもと作成する学校全体の事業計画に基づいて、教務部としての事業計画を立案し、養成目的と到達目標を明確にし、それに沿った教育課程を編成し、計画的に教育を行っている。 4. 業界のプロである講師からの情報やキャリアセンタースタッフによる企業訪問、教務スタッフによる実習巡回に加え、教育課程編成委員会等を最大限活用して、業界のニーズを的確に捉え、その変化に対応して養成目的や教育目標、カリキュラムの改善を常に実施し、イノベーションを図っている。 5. 実学教育として技術・知識を身に付ける「専門職業教育」に加え、人間教育として職業観・勤労観や仕事に対する身構え・気構え・心構えを身に付ける「キャリア教育」双方を兼ね備えたバランスの良い職業人教育を行っている。このキャリア教育は、授業、実習、就職、イベント、生活指導などあらゆる機会を捉えて実施している。 6. 年2回、学生に授業アンケートを実施し、授業評価を行いながら学生の授業に対する満足度の把握・向上に努めている。 7. 成績評価や進級・卒業認定基準は学則で明確に決められており、それを学生便覧及び教育指導要領に記載して、学生、教職員、講師に周知徹底している。そして、進級判定会議や卒業判定会議を通して、適切に運営されている。 9. 目標とする資格・免許は教育課程上で明確に位置づけられており、それを学校パンフレット、学生便覧、教育指導要領等に明記し、学生・教職員・講師に周知している。 10. 滋慶学園グループには、国家試験対策を包括的、科学的、システム的に支援する国家試験対策センターがある。加えて、学校独自で補習、個別指導、グループ学習などを実施している。また、学力を可視化することにより客観的な視点を持ち、一人ひとりのレベルに合わせた指導・対策を行っている。更には既卒の国試不合格者に対してもリスタートセンター等を設置し、卒業後も国試合格に向けた取り組みを実施している。	本校では、職業教育のアプローチとして、3つに時期を捉え、入学前のキャリア形成から、在学中のキャリア設計、卒業後のキャリア開発まで学生の育成・成長にフローで関わり、一人ひとりを大切にした教育を行っている。 ①キャリア形成 入学前の時期に、オープンキャンパスやマイスクールを通して、基盤となる勤労観・職業観の形成と確立をする時期。 ②キャリア設計 在学中は、専門職業に就くプロセスの設計と能力の習得をする時期。 ③キャリア開発 卒業後は、卒後教育等を通して、社会・職業人への移行と更なるキャリア開発をする時期。 <滋慶学園グループの各種組織・システム> ① 滋慶教育科学研究所 ・キャリア教育部会(カウンセラー委員会　進路変更委員会　その他) ・専門教育部会(教育分科会　産学連携委員会　FD委員会　その他) ・国際教育部会 ・教育分科会 ② 滋慶教育科学研究所　国家試験対策センター ・J-web(国家試験対策e-ラーニングシステム)等 ③(株)国際教育社　ILC国際語学センター(外国語教育担当部門) <新型コロナ感染症への対応> ①可能な限り対面授業を基本として実施している。感染拡大状況によりやむを得ずオンライン授業となる場合も、教育の質を落とさず必要な技術・知識が身につくよう、万全のフォローに努めている。 ②臨地実習や業界研修についても、病院や企業と調整の上できる限り実施をしている。やむを得ず学内実習となる場合も、実施方法や内容を工夫してできる限り現場に近い環境で実施し、必要な実践力を習得できるよう努めている。 <その他の教育> ①ITリテラシー教育 インターネットやSNSにおけるトラブルや被害から学生を守るため、毎年継続的にITリテラシー教育を行っている。 ②ホスピタリティ教育 ホスピタリティのある人材を輩出するため、ホスピタリティコーディネーター資格者を中心に教育を行っている。 <卒業生対象教育制度> ①卒業後教育制度 ②聴講生制度 ③卒業生対象国家試験対策リスタートセンター	4	しい。(村田委員) ・入学しても続かない学生、やる気のない学生は不要である。(村田委員) ・入学後の教育活動は大変良いと思う。(村田委員) ・今の時代就職しても自分に合わないと退職する若者が多いと聞くので、入学前にしっかりと説明することを望む。(要委員) ・学生目線に考えられたオープンキャンパスを多く実施されており、大変良いと思う。(中西委員) ・キャリア形成の時間を設けることで入学生のイレギュラー<思っていたのと違った>防げると思う。(谷口委員) ・シラバス作成が以前より厳しくなったが、指導する立場として明確となり、学生にとっても良いと思う。(谷口委員) ・今年度は退学者増加等難しい課題があったが、活動内容や取組情意の部分ではこの上ない尽力を感じる。(今里委員) ・教育提供側(学校)と受け手(学生ーゲスト)の一部不一致の点を明確にされ、次年度実りある成果に繋げていただきたいと感じる。(今里委員) ・オープンキャンパスを繰り返し開催して、入学志願者が十分に将来を考える機会をもてるのは大変重要なことと思う。(案西委員) ・授業アンケート実施され、入学後のフォローにも配慮されている。(案西委員) ・医療業界での仕事を目指すうえで患者の情報は超個人情報であり、その保護は最も重要。ITリテラシー教育は、その基礎ともなりうるので、是非とも継続していただけると幸いである。(丸田委員) ・退学者が増加している大きな原因は何ですか。(橋本委員) ・キャリア形成は素晴らしいと思う。(橋本委員) ・COVID-19対応は良いと思う。(橋本委員) ・コロナ禍でコミュニケーション不足による退学者が多く大変だったと思いますが、次年度は退学者が少しでも減るよう期待する。(福田委員) ・社会人になる為に、幅広い視野の獲得、心構え等の人間教育に共感する。(安積委員) ・教育実施後、社会に出るお手伝いとして就職先の推薦を今後力を入れていただき、具体的な社会人像を入学前のキャリア形成期に提示提案出来るよう更なる強化を望む。<既にされていると考えますが>(安積委員) ・担当されている生徒は大変純粋で真面目で夢を持っている。どうにか達成できればと思い、ご助力出来ればと考えて接している。(安積委員) ・オープンキャンパスはとても良いと思う。息子は毎週のようにオープンキャンパスに通い、先生方からアドバイスを受けて進学した。学生に寄り添うとは中々難しいことですが、親としては大変助かる。その他の教育に関しても離れて暮らしていると、そういう教育も不安でしたが、今回話しを聞いて先生方に感謝している。(富崎委員)
4 教育成果	1. 就職率の向上が図られているか 2. 資格・免許の取得率の向上が図られているか 3. 卒業生の社会的評価を把握しているか	3	1. 就職率　2022年度生4月27日現在実績 就職希望者:269名　就職者:260名　就職率:96.7% 就職100%達成予定:5月末日 2-1. 国家試験合格率 受験者　合格者　合格率　全国平均 柔道整復師　57　36　63.2　65.4 はり師　34　29　85.3　85.5 きゅう師　34　29　85.3　85.9 救急救命士　27　27　100　93.8 理学療法士　54　52　96.3　94.8 作業療法士　14　14　100　91.3 歯科衛生士　30　29　96.7　95.2 看護師　41　32　78.0　90.0 2-2その他資格 受験者　合格者　合格率　全国平均 健康運動実践指導者　19　10　52.6　60.9 アスレティックトレーナー(筆記試験)　13　4　30.7　非公開 登録販売者　14　8　57.1　44.4 ヘルスケアアドバイザー　16　14　87.5　非公開 医療秘書技能検定(3級)　6　4　66.6　74.1 医事コンピュータ　6　5　83.3　80.2 診療情報管理士　3　3　100　66.0 3. 卒業生の社会的評価につきましては、過去3年分の就職先へ在職調査を実施。515社へ郵送し219社より回答があり、回答率は43%。滋慶学園グループの就職システムへ情報を入力。在職者462名のうち1年目の離職者が6名(1.3%)で3年目の離職者が16名(3.5%)、トータル22名(4.8%)。在校時より職業観・勤労観を育むことが重要。	<定性目標> ①即戦力としての実践力を身に付ける。 ②人間力を身に付ける(仕事に対する身構え・気構え・心構え)。 ③組織の中で力を発揮する為のコミュニケーション能力を身に付ける。 ④プレゼンテーション能力を身に付ける。 ⑤チームとして仕事をする為のチームワークとリーダーシップを身につける。 ⑥職業観・勤労観を確立する。 <就職> ①就職率100%(3/31)を目標とする。 ②第1専門職での就職。 ③ミスマッチによる早期退職の防止。 ※奨学金貸与学生に対しては、余裕をもって返済可能な収入を確保できる就職先の斡旋に努めている。 <資格取得> ①滋慶学園JESC国家試験対策センターと連携した国家試験対策を実施している。 ②学内国家試験対策会議を実施し、成功事例の共有や適切な対策を行っている。 ③全体的な課題として、成績上位者と下位者の学力の差が大きい傾向にあり、成績下位者の学力を低学年より向上させる学習システムが必要である。また、新入生については、基礎学力が非常に低い、あるいは学習習慣が身についていない学生もいることから、基礎学力の向上の取り組みに加え、生活習慣の改善及び学習習慣の確立に努めている。	3	・就職率は問題ないと思われる。(村田委員) ・国家試験は学生のやる気と努力だと思う。やる気の出る教育と努力し続けられる教育をして欲しい。(村田委員) ・国試合格率にこだわりすぎると受験させない、卒業させないといった学校もある。合格率に左右されずきちんとした授業を目指して欲しい。結果、おのずと合格者が増えると思う。(要委員) ・学生の間に、自分の職業への意識を高めることが必要である。(要委員) ・資格の合格率が各学科の定員数の充足にもつながっている理由の1つと考えられるので、合格率アップの為の施策を検討いただけると良いと思う。<1年目から登録販売者資格勉強試験対策中心に、また実際に使われる試験会場を借りて場馴れしたりグループ校と協力し普段と違う環境で行う。>(中西委員) ・資格取得に向けての取組みはされていると思う。(谷口委員) ・国家試験合格率において、一部課題が大きいよう感じる<看護師>。(今里委員) ・前年度比較が不明であるため向上しているかどうか判りかねるが、就職率については看護系にはなりますが担当科の先生達の尽力に感服している。(今里委員) ・就職率はすばらしい数字だと思う。(案西委員) ・国試合格率は評価難しいが、歯科衛生士は出題傾向変わり難のなか大健闘だと思う。(案西委員) ・看護科国試合格率が全国90%に対して78%と下回っているが、今年度何か特別な理由があったのか。(丸田委員) ・看護師の国家試験合格率が全国平均より低い。その原因と対策方法を求める。(橋本委員) ・救急救命士100%合格は素晴らしいが、希望地での就職は難しいのではないかと思う。(橋本委員) ・最低ラインとして、全国平均より高い合格率を期待する。(福田委員) ・目標の3/31 100%の就職率を達成してもらいたい。(安積委員) ・就職ミスマッチの防止に向かって現状の運営されていると思う。今以上に努力していく姿勢が感じられる。(安積委員) ・学生が求める資格と適性を正しく把握されていると思う。学生に如何に強く進めていくが重要だと思う。(安積委員) ・今の子供はゆとり世代のため学力は低いと思うが、マンツーマンで教えてくれたり、勉強の仕方を教えてくれたりして、とても良くしてくれてると思う。(富崎委員) ・職種から、国家試験合格や資格取得が第一と考える。是非全員が合格できる取組を期待する。(戎崎委員)

5 学生支援	1.就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか 2. 退学率の低減が図られているか 3. 学生相談に関する体制を整備しているか 4. 留学生に対する相談体制を整備しているか 5. 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか 6. 学生の健康管理を行う体制を整備しているか 7.学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか 8. 課外活動に対する支援体制を整備しているか 9. 保護者との連携体制を構築しているか 10. 卒業生への支援体制を整備しているか 11. 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか 12. 社会のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	2	1. 就職については就職を専門とするキャリアセンターが担当し、学内で実施する合同企業説明会、就職ガイダンス、就職出陣式などの就職イベントの実施を始め、求人獲得、履歴書指導、面接指導、業界情報の収集およびフィードバックなど様々な支援を行っている。また、卒業式までに就職が決まらない場合でも、全員の就職が決まるまで卒業後も支援を続けている。合わせて、卒業後の転職・再就職も支援している。 2. 本校は担任制度を引いており、担任を中心にポートフォリオや個別面談等を駆使して一人ひとりの学生に対して細やかな支援を行っている。また、退学理由の分析や退学防止対策、成功事例などについて研修や勉強会を随時実施し担任力の向上を図ると共に、滋慶学園グループ独自の支援機関や支援制度を活用して退学率の低減に努めている。 3. 担任による相談に加え、学生の相談支援機関として、滋慶トータルサポートセンター福岡を設置し、常駐のスクールカウンセラー（公認心理師・臨床心理士）がカウンセリングも実施している。 4. 留学生に対する支援や相談を包括的に実施する機関として国際交流COMがあり、その下に各地区に留学生担当を設け、担任と連動して留学生支援に当たっている。 5. 経済的支援については、相談窓口として学費担当を設置するほか、学費や奨学金、教育ローン等についてのアドバイスをするファイナンシャルアドバイザー及び奨学金担当者を配置している。また、学費分割納入制度、留年時の学費を免除する長期履修制度、滋慶学園独自の滋慶奨学金など、様々な支援体制を整備している。また、コロナ禍における保護者の収入減等に伴い、国や県の補助金を積極的に活用して支援をしている。 6. 毎年1回、在校生の健康診断を実施している。また、健康支援として慶生会クリニックがあり、在学中の健康維持支援を行っている。診療科目は、内科、歯科で、治療費の自己負担はなく、薬代も返金される。 7. 6棟645名分の滋慶学園専用寮や学生食堂、駐輪場などを設置し、生活環境支援を行っている。 8. 学生の課外活動であるクラブ活動について、コロナ禍にて部活動休止していたが、2022年度より再開。 9. 保護者との連携は、定期的な成績報告・出席報告・保護者会の実施に加え、学生の状況に応じて、担任が常に保護者と情報共有・連携・協力している。また、必要に応じて三者面談を行うなど保護者と連携した学生支援に当たっている。 10・11. 卒業生に対する支援としては、定期的・継続的に卒後教育を実施すると共に、同窓会を実施し情報の共有を図っている（2022年度は中止）。 12. 社会環境の変化に応じて、常に学科、コース、教育内容等のイノベーションを図り、社会のニーズを踏まえた教育環境を整えている。	＜求人件数＞ 2021年度　3,368企業 2022年度　3,329企業 ＜中途退学＞ 2021年度実績　在籍者：1,296名　退学者：72名　退学率：5.6% 2022年度実績　在籍者：1,338名　退学者：104名　退学率：7.8% ※2018（5.8%）➡2019（5.6%）➡2020（4.3%） ①中途退学にいたる主な理由としては、目的意識の喪失、学力不足、対人関係等であった。 ②学生満足度向上強化学科（1年DO7%＆全体5%以上の学科）を2018年度から指定し対応しており、初年度は6学科あったが21年は3学科まで減少したが、22年度は6学科（柔道整復科、救急救命公務員科,歯科衛生士科、スポーツ科学科、理学療法科、薬業科）に増加した。 ＜2022年度留学生数＞　3名（薬業科1名・作業療法科2名） 滋慶学園グループでは、「学生はゲスト」というコンセプトの下、学生満足の向上のため、様々な支援体制を整備している。 ＜主な支援機関＞ ① 医療法人社団 慶生会　滋慶トータルサポートセンター福岡 ② 医療法人社団 慶生会　慶生会クリニック福岡（内科・歯科） ③ 慶生鍼灸院 ④ キャリアセンター ⑤ 滋慶学園専用寮（スチューデントハイム・アソシエイト） ⑥ 学生食堂（滋慶レストラン） ⑦ 学費担当・奨学金担当 ⑧ ファイナンシャルアドバイザー ⑨ 進路変更委員会 ⑩ 国際交流COM ＜主な支援制度＞ ① 進路変更制度 ② 長期履修制度 ③ 学費分割納入制度 ④ 滋慶奨学金 ⑤ 担任制度 ⑥ 聴講生制度 ⑦ 卒業後教育制度 ⑧ 既修得単位認定制度 ＜その他＞ ① 各種クラブ活動 ②駐輪場の整備 ③高等教育修学支援新制度の対象機関として認定	3	・優秀な学生への特待生制度＜学費免除又は割引等＞を検討して欲しい。（村田委員） ・退学者が多かった原因を調査分析し、対応することが大事であるし、今後に生かしていただきたい。（要委員） ・退学者が多い月の前に、面談やカウンセリングを行い退学という結論に至る前に対策を行うと良いと思う。（中西委員） ・退学者の多い学科、要因分析等どのような対策を実施されているのか。（中西委員） ・学生支援のための機関や制度は充実していると思う。（谷口委員） ・精神的、身体的、経済的な課題をもった学生の対応について、学校として可能な限り最大限のサポートしていると思う。（今里委員） ・若い世代の育成は容易でなく、課題を明確にして根本の要因に対策が講じていけることを求める。（今里委員） ・中途退学者について、細やかな分析がなされており、附属のクリニック等でのサポートなど対策も実施されている。（案西委員） ・一定数の退学者の発生はやむを得ないと思う。（案西委員） ・中途退学者増について、コロナ禍後期において対面で接する機会の減少の影響が少なからずとも出てきていると思う。（丸田委員） ・5類に引き下げられる来年度から退学率が減少に変化すると思う。詳しくはわからないが他校も同じ状況だと思う。（丸田委員） ・退学者の中には、COVID-19で医療業界は危険だと感じた学生もいたと考える。全てにおいて、その原因と対策をしっかりしていけば、もっと素晴らしい学園となると信じている。（橋本委員） ・コロナ禍での退学者増加は仕方ないが、今後退学者が増えないように頑張ってもらいたい。（福田委員） ・様々な対策は成されていると思うが、厳しい環境下で退学率が悪化している事実は大変だと思う。今以上に、精神面・身体面のサポート体制の強化を望む。（安積委員） ・支援機関の情報が伝わっている学生と伝わっていない学生がいると思う。（富崎委員） ・経済支援に関しては、学校から結構な回数で色々と詳しく説明受け感謝している。（富崎委員） ・退学率がやや上昇していることについて、コロナ禍の影響も考えられるが、高校から専門学校へのスムーズな橋渡しとなるようなプログラムの充実など、対策を講じる必要があると思う。（稲富委員） ・退学者数が気になる。また「学生はゲスト」というコンセプトが気になる。（戎崎委員）
6 教育環境	1. 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか 2. 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施制度を整備しているか 3. 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか 4. 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4	1. 施設・設備・機器類などについては、設置基準及び関連法規に全て適合しているだけではなく、その目的を達成する為に必要な最新の施設・設備を揃え、常に万全の状態で活用できるよう定期点検・維持管理を行っている。コロナ禍にて遠隔授業が可能となるよう、必要な環境整備（ZOOMやTEAMS等）を実施した。 2. 即戦力としての技術・知識・実践力を身に付けさせる為に、多岐に渡る様々な実習先の開拓を常に行い、臨地実習・学外実習・海外研修等の実施体制を整備してる。　※2022年度海外実学研修は中止。 また、それぞれの業界のプロとして、現場経験豊富で高い技能を有した優秀な人材を常に発掘して、講師として就任して頂いている。 3. 防災計画を策定し、それに基づいて防火管理者を始めとして防災組織体制を構築している。また、年2回の避難誘導訓練を実施すると共に、ゲリラ豪雨や竜巻、地震など異常気象に備えて、学生の危機意識の確立を図って安全確保に努めている。 4. ガードマンが常駐し、館内警備にあたると共に、安心安全な教育環境を学生に提供するために、自転車安全講習、薬物乱用防止講習、悪徳商法被害防止講習、女性犯罪被害防止講習など様々な安全講習を実施している。 5. 校内の整理・整頓・清掃・整備を徹底し、学生が気持ちよく最善の環境で勉強できるよう、常に万全の体制を整えている。 6. コロナ禍に伴い、学校玄関にAIサーマルカメラ、各教室、実習室、教務室には、エアバスター（オゾン脱臭機）を設置。また講義用シールドを全教室・実習室に設置。学生は実習など必要に応じてフェイスシールドも使用。	滋慶学園グループには、滋慶教育科学研究所（JESC）を始めとして、教育環境をサポートする企業・組織が多く存在し、グループ総力を挙げて教育環境の整備にあたっている。 ＜サポート企業・組織の一例＞ ① ジケイ・スペース㈱ ② DUCE ③ ㈱ブレーンスタッフコンサルタンツ ④ VISTA　ARTS ⑤ 西部建設 ＜その他＞ ① ガードマンの配置による安全確保 ② 緊急時安否確認システムによる学生の安全確保の推進 ＜安全衛生委員会＞ 看護科の教員を中心に安全衛生委員会を組織して、「新型コロナウイルス感染対策マニュアル」を作成し、万全な感染対策に努めている。	4	・私が40年前学んだ学校よりも大変設備が整っており、教育環境は大変良いと思う。（村田委員） ・取組良いと思う。未来を見据えた設備整備、評価できる。（要委員） ・自転車通学生に対して加害者にならないような運転マナーなどを講習し、通学時の安全管理も実施されると良いと思う。（中西委員） ・709幼児体育指導実習室を授業で使用しているが、全開でき床から窓までの高さが低くとても危険だと感じている。（谷口委員） ・実践可能な環境整備が展開されている。＜コロナ禍のリモート、Zoom、Teams、グローバルな教育環境に申し分ない＞（今里委員） ・コロナの影響で海外実学研修は中止されたものの、WEBで代替研修行うなど、その取組みは評価できると思う。（案西委員） ・臨地や学外実習においては即戦力となるようなOJTを通して実践力を身につけられると思うが、海外研修は具体的にどのような面が即戦力につながるのか。（丸田委員） ・防災訓練は安全を感じたが、地域で高齢者等への声掛け訓練もあれば、もっと安全安心で信頼を得られると思う。（橋本委員） ・対面式、遠隔授業とうまくコロナの状況を確認しながらできていたと思う。（福田委員） ・ハード面は素晴らしいと思う。現状維持し更なる最新の施設を目指して進んで欲しい。（安積委員） ・安全安心の体制について、スタッフ中心に挨拶からお互いの状況を確認されている様子が好ましく思う。（安積委員） ・全てに対して良いと思う。（富崎委員）

7 学生の募集と受け入れ	1. 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか 2. 学生募集を適切かつ効果的に行っているか 3. 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか 4. 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか 5. 経費内容に対し、学納金を算定しているか 6. 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取り扱いを行っているか	3	1. 高等学校等への情報提供窓口として専任の担当者を設けている。また、定期的・継続的に高校訪問を実施しているほか、各種媒体、入学案内パンフレット、各種ガイダンス、オープンキャンパス、ホームページや各種SNSなどを活用して、適宜適切に正しい情報をの提供に努めている。 2. 本校は、福岡県専修学校各種学校協会に加盟し、高等学校と同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容を遵守している。 また過大な広告を一切廃し、必要な場合は根拠数字を記載するなど、適切な学生募集を行うように配慮すると共に、広告倫理委員会を設置し、適切に広報活動が行われているかをチェックしている。 3. 入学資格、出願方法、選考日程、専攻科目等の入学選考基準を学生募集要項に明示するとともにホームページにもアップしている。これに基づいて入学選考を行い、「入学選考会議」により合否を決定している。なお、本校における入学選考は、学生募集要項にも明示している通り、「面接」及び「作文」「調査書」による書類選考であるが、その基準となるのは、「目的意識」である。将来目指す業界への職業意識や具体的な目標がしっかりしているかを確認すると共に、その目的が本校より提供する教育プログラム及びカリキュラムにおいて実現可能かを確認するものである。ただし、競争倍率が一定程度発生する看護科に於いては、それらに加え「現代文」「数Ⅰ」「小論文」の筆記試験を行なっている。 4. 入学選考に伴う面接や高等学校調査書において収集した情報・実績を把握・活用し、授業改善に努めている。また、高校生の動向を探るために専門業者と連携し、各学科の人気度の把握に努める。学校全体で行うアンケートの集約には時間がかかる為、Googleフォームでアンケート調査を行い、授業開始時期に間に合うスケジュールで入学者の傾向把握を行っている。 5. 学校納付金については、事業計画に基づいて経費内容を十分に吟味・考慮の上、適正に設定されている。 6. 入学辞退者の授業料等については、3月31日までに入学辞退の申し出があった場合は、入学金を除き学費等を全て返還している。しかし、4月1日以降は、最高裁の判例に基づき、海外研修積立金などの預り金以外は、返金できない。また、このことは、学生募集要項に於いて、「学費一覧」ページに明記している。	本校の広報活動は、入学前のキャリア形成の時期と捉え、オープンキャンパスを通して、自己発見をすると共に、基盤となる職業観・勤労観を確立してもらうことを目的としている。よって、入学前に職業イメージをどれだけ明確に持っているかが大切と考え、オープンキャンパスや説明会への複数回の参加を促し、本校及び目指す職業を充分理解し、疑問を解消した上で出願してもらうことを心がけている。 そのためにも、高校や会場で行われるガイダンスに加え、ホームページを中心に様々なSNSを有効に活用して、入学希望者が求める情報を適時適切に提供するよう図っている。 ＜2023年度新入生＞ 学科　新入生　定員　充足率 柔道整復科　87名　90名　96.7% 鍼灸科　70名　60名　116.7% 救急救命公務員科　43名　35名　122.9% 理学療法科　85名　80名　106.3% 作業療法科　27名　40名　67.5% 薬業科　28名　40名　70.0% 歯科衛生士科　41名　40名　102.5% 看護科　32名　40名　80.0% スポーツ科学科　75名　80名　93.8% スポーツマネジメント テクノロジー科　15名　20名　75.0% 合計　503名　525名　95.8% ※2022年度新入生入学実績：493名 昨年の定員充足率93.9%から若干改善はしているものの、学科によって定員充足率にばらつきがあるため、定員充足率を高めるための更なる取り組みを行う必要がある。 特に、作業療法科と薬業科は定員の充足率が低い状況である。それぞれの職業に対する高校生の認知度が低いことが大きな要因と考えられるが、業界からの人材ニーズは高いだけに、募集活動の強化を図りたい。また、スポーツマネジメントテクノロジー科については、学科新設から1年が経過して学科の認知度が徐々に高まり2023年度の新入生も順調に伸びている。来年度は定員充足率100%を目指したい。	3	・高校生等が福岡医健に入学したくなるような学校であって欲しいと望む。そのためには、国家試験合格率アップや授業料など安いほうがよいと考える。（村田委員） ・学生のなりたい、学びたい問題もあり、それぞれの科が充足率100%を目指すのはなかなか難しいと思う。地道なアナウンスしかないと思う。（要委員） ・充足率の低い学科の充足率上げる対策としてどのような取組みをされ、結果はどうだったのか。（中西委員） ・充足率の高い学科は定員数を引き上げ全体の充足率100%目指されると学校運営には良いと思う。（中西委員） ・面接等で入学拒否することあるか。（谷口委員） ・充足率が高い場合、授業で支障をきたすか。（谷口委員） ・定員充足率にバラツキはあるが、要因分析がなされており、次年度に活きてくることを期待する。（今里委員） ・全体しての定員充足率に貢献できていて良いと思う。（今里委員） ・少子化のなかで、定員に対して95.8%の充足率という数字は高く評価できると思う。（案西委員） ・募集要項もわかりやすく明示されている。（案西委員） ・定員割れしている作業療法科及び薬業科の認知度向上の為業界全体で取り組む必要がある。業界も何らかのアクションを起こすことが必要である。（丸田委員） ・本当に人を助けたいと思い入学する学生と、とりあえず国試合格すれば職があると考えて入学してくる学生の割合を求める。（橋本委員） ・子供が少なくなって大変とは思いますが、魅力ある専門学校なので定員の人数は集めてもらいたい。（福田委員） ・既にされている“具体的な社会人像”を如何に訴求できるかがポイントだと思う。夢の面でもいいが、現実の部分もある程度踏まえて職業観を提示できればと思う。その為に、学校が何をサポートしていくか強く打ち出し特徴を今以上にアピールし充足率がアップすることを期待する。（安積委員） ・卒業＜薬業科、作業療法科、スポーツマネジメントテクノロジー科＞後の仕事内容認知や活躍内容の幅が認知されれば、充足されるのではないかと思う。（富崎委員）
8 財務	1. 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか 2.学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか 3.教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか 4. 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか 5. 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか 6. 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	4	1. 毎年5ヵ年の事業計画を作成し、中長期の視点で5ヵ年の収支予算を立てており、財務基盤は安定している。 2. 5ヵ年計画及び単年度事業計画に基づいて、滋慶学園本部、法人本部、学校がそれぞれの立場から財務分析を行っている。 3. 5ヵ年の予算は、中長期を見越した新学科構想、施設・設備構想、人員構想等を考慮して支出を計画し、将来の学生数等を鑑みながら収入を予測し、収支計画を作成している。 4. 適切かつ適正な予算管理を行うため、費用対効果を充分に考慮した効率的な予算執行を行うと共に、予算の執行・消化状況を毎月チェック・管理している。また、一旦作成した予算であっても現実と乖離した場合は、当初予算を修正する必要がある。その為、短期予算においては、半期が終了した段階で修正予算を組み、中長期予算においては、毎年編成をしなおす。 5. 学園本部の機能として二重チェックの体制となっており、学校の財務体制をしっかりと管理し、健全な学校運営が出来ている。 また収入と支出のバランスは、理事会で毎年確認されている。 さらに、監査は私立学校法上義務付けられている「監事監査」のほか、「公認会計士による監査」も受けている。 6. 私立学校法に基づいて、ホームページで財務情報を公開している。現在は、令和3年度財務情報を記載しているが、決算理事会終了後の2023年6月末を目途に、令和4年度財務情報に更新予定。	本校が属する学校法人滋慶学園の財務情報公開に関しては、 下記の通りとなっている。 ＜組織体制＞ 1. 法人統括責任者 2. 学校統括責任者 3. 学校事務担当者 ＜公開資料＞ 1. 財産目録 2. 貸借対照表 3. 資金収支計算書 4. 事業報告収支計算書 5. 監査報告書 ＜閲覧場所＞ 法人本部	4	・しっかりしていると思われる。（村田委員） ・公開されているのなら問題ないと思う。（要委員） ・複数の組織(立場)で財務分析を行ってあり、問題ないと思う。（今里委員） ・資料公開も行っており、妥当性はあると思う。（案西委員） ・財務分析がしっかりとできているので、特に問題ないと思う。（福田委員） ・適切に運営されていると思う。（安積委員）

9 法令等の遵守	1. 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか 2. 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか 3. 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか 4. 自己評価結果を公表しているか 5. 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか 6. 学校関係者評価結果を公表しているか 7. 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4	1. 法令や設置基準の遵守に対する方針は、滋慶学園グループとして明文化され、法令遵守に対応する体制は整備できている。また、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めると共に、現場に於いては、ガバナンスを十分に利かせた学校運営を行っている。そして、学校運営が適切かどうかは、次の各調査等を通してチェックし、法人理事会のもとにコンプライアンス委員会が判断している。 ①学校法人調査 ②自己点検・自己評価 ③学校基本調査 ④専修学校各種学校調査 ⑤学校施設認定規則に基づく報告 2. 資料請求者、在校生、卒業生、教職員、講師、実習先など学校が保有する個人情報は、個人情報保護法に基づいて、厳格に管理・保護されている。 また、学生、教職員、講師は、毎年ITリテラシーテストを受けて、個人情報保護及びインターネットやSNSでのトラブルに係る知識の充実を図っている。 3. 4. 毎年、自己評価・自己点検を実施し、その結果をホームページ等で公開している。 5. 6. 学校評価規定に基づき学校関係者評価委員会を組織し、自己評価・自己点検を基に外部委員による学校関係者評価を行い、その結果をホームページ等で公開している。 7. 情報公開規定に基づき、あらゆる教育情報をホームページ、各種SNS、学校パンフレット、オープンキャンパスなど様々な方法で随時公開している。	＜法令順守に係る組織体制・システム＞ (A)組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ) (B)システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ ⑤コンピュータ管理システム(COMグループ) 学内にコンプライアンス委員会を設置し、厳格なコンプライアンスの遵守に努めている。委員長は、統括責任者である法人の運営部長が就任し、委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長等で構成される。 主な任務は、行動規範・コンプライアンス規程の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発防止対策の検討・実施、コンプライアンスの周知徹底のための啓蒙活動の推進である。 監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象としてコンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。	4	・法令等大変良く守っていると思う。(村田委員) ・ホームページに公開している内容をスクリーンに出してもらえると、より一層理解できると思う。(要委員) ・個人情報取扱いは、しっかり管理されていると思う。(谷口委員) ・ITリテラシー対策に尽力されている点において高く評価する。(今里委員) ・学校関係者評価の実施結果をホームページ上で公開される等、透明性の高い学校法人だと思う。(今里委員) ・情報公開がきちんとなされており、またコンプライアンス委員会の設置など高く評価できると思う。(案西委員) ・学校関係者評価結果を是非ホームページで拝見したいと思う。(丸田委員) ・調査や評価がしっかりしオープンされているので、素晴らしく良いと思う。(橋本委員) ・今の時代、SNSのトラブルが大変なことになるので、今後も学生、教員の教育を望む。(福田委員) ・適切に運用されていると思う。昨今インターネットやSNS等のトラブルが世間的に見受けられるので、学生が巻き込まれないように今後も指導をしてもらいたい。(安積委員)
10 社会貢献	1. 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 2. 国際交流に取り組んでいるか 3. 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	4	1. 本校では例年、業界団体や企業、行政、高等学校等の教育機関、地域等とタイアップして行うスポーツイベント、障害者支援イベント、市民イベント、救護活動、救命講習、公園清掃、中学や高校での特別講義やスクールトレーナー活動など様々な取組を実施している。 また、滋慶学園グループが推進する「地球温暖化防止対策」運動を通して、節電、冷房28度・暖房20度設定、階段利用促進(2アップ3ダウン)、ゴミ削減、資源有効利用などの取組を実施している。 産学連携教育というコンセプトの下、日々の授業や実習等がそのまま社会貢献につながるような企画を増やし、社会・地域と学校・学生が、win-winの関係になるよう努めている。 2. 国際交流や留学生支援を包括的に実施する機関として国際交流COMがあり、留学生支援を始めとして国際交流に当たっている。滋慶学園福岡各校にも、様々な国から多くの留学生が入学しており、国を超えた交流イベントも積極的に実施している。 3. 学生の社会貢献並びにキャリア教育の一環として、学生のボランティア活動を奨励・支援している。学科によっては、単位認定条件を定め、ボランティア活動に参加した学生に対し、一定の基準を満たす者には特別単位を認定している。 2021年度においては、新型コロナ感染拡大の影響で様々なイベントが軒並み中止となり活動機会が極端に減ったことに加え、感染拡大防止の観点から学生が自主的に行ってきた各種社会貢献活動、地域貢献活動も自粛せざるを得ない状況であった。 しかし、2022年度は新型コロナ対策を行いながら、各種イベント等も少しずつ再開され始めたため、できうる範囲内で可能な限り社会貢献は実施できたと考えている。	2022年度に実施した主な社会貢献活動 ① 全国高等学校選抜自転車競技大会のメディカルサポート ② 金鷹旗柔道大会・玉竜旗剣道大会メディカルサポート ③ ｻﾆｯｸｽﾜｰﾙﾄﾞﾕｰｽﾗｸﾞﾋﾞｰ大会ﾒﾃﾞｨｶﾙｻﾎﾟｰﾄ ④福岡マラソン車いす協議部門支援プロジェクト ⑤福岡城さくらまつり・人力車プロジェクト(新規) ⑥御供所公民館認知症カフェプロジェクト(新規) ⑦各種団体とタイアップして行う一部のイベント支援 その他	4	・福岡マラソンでボランティア活動している「公益社団法人福岡県柔道整復師会」ので、学生達に見学などどうでしょうか。(村田委員) ・学生が積極的に参加する活動になってもらいたい。(要委員) ・イベント参加や交流など郊外での活動を通じて、より人間力成長ができると思います。積極的に参加してもらいたい。(谷口委員) ・コロナ禍で活動しづらい年度であったにも関わらず、地域とのつながりを絶やすことなく展開された事を高く評価できる。＜かしわ餅つくり、ゴミ拾い運動＞(今里委員) ・幅広く社会貢献活動に取り組む姿勢は、学生にはとてもいい経験になると思う。(案西委員) ・地域との交流は大切なことで、しっかりと連携していると思う。(橋本委員) ・自治会や民生委員の方々と交流されると更に素晴らしいと思う。(橋本委員) ・コロナが落ち着き、大会やイベントが再開されましたので、今後は可能な限り参加してもらいたい。(福田委員) ・社会貢献や地域社会との共生概念は大変素晴らしいと思う。今後どの業種・企業の方も積極的に取り組まれると思う。意義を学校として学生と一緒に取組まれることに敬意表している。(安積委員) ・学校でしか出来ないイベント活動は社会に出ても役に立つと思う。(富崎委員) ・人との関りが少なくなってきている世の中で、イベントで人と交わるのは良いと思う。(富崎委員) ・コロナ禍でできなかった分、様々な貢献事業を期待したい。(戎崎委員)